



時計台の鐘

第 71 号

特定非営利活動法人

さっぽろ時計台の会

会長 木原直彦

札幌市中央区北1条西2丁目

重要文化財・時計台内

TEL 011-251-5944

鐘の音は市民と共に

会長 木原直彦

旅で出会った人に、よく「何処から来ました」と聞かれる。「札幌から」と答えると、きまつて憧れに似た表情で「ああ、あの時計台の…」という言葉がかえってくる。札幌市民憲章の前文どおり「時計台の鐘がなる札幌の市民」のシンボルなのだけど、観光客は時計台のたたずまいから札幌の街をイメージしているにちがいない。

ぼくは旅に出るとその土地の風土を知るため好んで古建築や史蹟や博物館などを訪れるが、昨年の春に四国に行ったとき関西の人たちと意気投合した。当然、時計台の話にもなって、夢見る」とくせひ見に行きたい、もう一度行きたい、という声を聞く。なかには「一小時も待って鐘の音を聞いたときは、その響きに心がふるえました」という女性もおられた。きっと、あの音が彼女に札幌の歴史を語りかけたからであつたろう。

激しく発展してきた近代都市の宿命で、街歩きをしていても、ここに何々があった、としか言いようがないほど変貌している。その中で、札幌文化発祥ともいふべき時計台が都心にあって昔の姿をどどめて歴史的証言になっているのは奇蹟といつてよいであろう。

時計台の意義はもとより多面的だが、学者や文化人や芸術家たちが数多く講演されたことも強く記憶すべきことおもう。あの古雅な建物のなかには、じつに多くの人たちの息吹きが深く深く染みこんでいるのだ。さらに、図書館時代のことも欠かせない。どれほど札幌っ子は通い詰めたことか。いま五千円札の肖像になっている樋口一葉の研究第一人者・和田芳恵もその一人で、『時計台の鐘が鳴る』の歌で有名な図書館に通つた若き日の想い出を熱く語っている。

そう、名曲「時計台の鐘」はもう一つの掛替えのない財産なのである。昨年秋に開いた時計台まつりの式典は鐘の音とともにはじまり、壇に上った上田市長の発案で全員が「時計台の鐘」を合唱したが、感動的であった。明治二十七年に札幌で生まれた随筆家の森田たまは書く。「札幌という町が美しいのは、あの鐘の音が美しいからです」



カット絵は、関堂圭子さんの四季の時計台絵ハガキから

創建記念式典盛大に開催



時計台創建128周年を迎えた昨年の10月16日（月）、上田札幌市長、松平札幌市教育長のご臨席を得て、18時の時計台の鐘を合図に記念式典が盛大に開催されました。小西理事の司会の下、冒頭、木原会長から以下のようなご挨拶がありました。

上田市長のご出席に感謝の意を述べられ、この時計台を愛する気持ちから25年にわたり時計台まつり行事を行ってきたこと、更に、時計台が札幌市民に愛されてきたこと、歴史的にも文化的にも建築物としても、札幌市民にとってかけがえのない財産であること、札幌のシンボルであり、北海道の精神の発祥地とも謳われていることを話され、そんな時計台を一生懸命愛護している私たちの活動に皆様方の熱き心を頂戴できれば大変うれしく思いますと話されました。

また、本日のもう一つのメインである児童絵画・市民文芸の表彰式にふれ、受賞された皆さんにお喜びを申し上げるとともに、ご家族、携わった先生方のお力添え、審査に当たった先生方への感謝の意を表されました。

続いて、上田札幌市長から以下のようなご挨拶をいただきました。

ご挨拶の後で市長さんとともに参加者全員で「時計台の鐘」を合唱し、改めて時計台愛護の心を確認し合う感動的な素晴らしい式典となりました。

上田札幌市長 ご挨拶



皆さんこんばんわ。札幌市長の上田でございます。今日は時計台創建一二八周年記念式典、そして、第二回回時計台まつり記念の児童絵画展・市民文芸作品コンクールの表彰式ということでお招きいただきました。本当にありがとうございました。これまで、私、市長に就任して三年四ヶ月になりますが、この式典に出させていただきましたのは初めてでございます。ものすごくうれしい思います。私たちの愛するこの時計台、これが皆さん方にとって、もっともっと誇りに思えるそんな時計台だとみんなで確認し合っていることができるとても素敵な行事だと思うからであります。そして今、木原会長さんからお話をありましたように、時計台の歌というのは私たちの心の歌です。その歌をみんなで歌えるというのは、本当に素敵なことだと思います。さて、受賞される子供たちの作品を見せていただきましたが、どの絵も元気いっぱい。いい絵がたくさん描かれていました。これから表彰を受けられる皆さんに心からお祝いを申し上げます。

明治十一年、今から一二八年前、約一三〇年前になりますが、札幌の人口はどのくらいあったと思いますか。今、約一八九万人になっていますね。ちょっと調べてみましらんですね、二四九六年。当時の札幌市の人口です。約七五〇倍になっています。すごいでしょう。そんな昔、この時計台は北二条西二丁目に建てられ、明治三十九年にこの場所に移つてきました。しかし、時計といふのは独りで動くものではありません。この時計台をしっかりと守つていただいている方がおられます。井上さんは親子二代にわたつて献身的にこの時計を修理し、補充をし、そして、今まで間違えない“時”を札幌市民に知させてくれているわけです。親子二代にわたつてこの時計台を守つててくれた井上さんに本当に感謝の意を表したいと思います。

そして、皆さんが一年に一回ここに集まって「時計台いいね、私たちはこの時計台の鐘が鳴る札幌市民なんだよね」、そんなことをみんなで思い、この時計台をいとおしく思う、そんな“時”を過ごすことができる。これからも、そんな場を作ってくれる、さっぽろ時計台の会の皆さん、これまでのご努力に心から感謝申し上げながら、この会が益々発展し、継続していくことを心からお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。



児童絵画展
札幌市長賞の授与

課題を残した時計台まつり記念行事

1 記念演奏会について

① 実施日時 18:30~20:30

・第1回 朗読・歌曲・ピアノ連弾演奏会	6月22日(木)	130人
・第2回 長唄演奏会	7月25日(火)	92人
・第3回 北海道国際音楽交流協会員演奏会	8月26日(土)	103人
・第4回 ピアノ・ヴァイオリン・箏演奏会	9月29日(金)	115人
・第5回 ソプラノ・ギター演奏会	10月15日(日)	83人
・第6回 創建記念演奏会	10月16日(月)	130人

③ 状況と成果

主に「広報さっぽろ」を通して鑑賞者を一般公募した5回の演奏会及び式典・表彰式関係者を対象とした創建記念演奏会の計6回の演奏会を行った。第6回を除いて、昨年度と同様の企画であったが、はがきによる参加申し込みが大幅に減少した。内容面ではいろいろなジャンルによる演奏があり、終演後の鑑賞者の評判も良く、どのコンサートも好評であっただけに鑑賞者の減は大変残念な結果となった。「広報さっぽろ」誌面での取り扱いが字数の関係で制限され、演奏会の内容が事前に充分に伝わらなかったことが大きな要因と考えられる。いずれにしても、多くの方々、幅広い年齢層の方々にこの行事を周知させる広報面での取り組みが大きな課題となつた。



2 児童絵画展・市民文芸作品コンクールについて

児童絵画展については、今年度は市民憲章推進会議のポイ捨て防止のポスター募集等とのタイアップが中止となったのは残念であったが、昨年を大幅に上回る応募があり、盛りあがった絵画展となつた。「自然と建物の調和を考え、構図が工夫された作品が多くあった。一方、構図や表現が画一化され、子供らしい

伸び伸びとした表現が生かされていない作品もみられたのは残念でしたが、全体としては、自然と融和した札幌の街なかがよく表現されていました」という審査委員の講評もあり、大きな成果が得られた。ただ、講評の中にもあったが、大人の発想、大人の手が加わった作品も見られたのは残念であった。

市民文芸作品コンクールについては、今年度も審査委員の先生方にご協力をいただき市内の各句会等に作品募集のチラシを配布しPRに努めた。結果、例年の応募数を大きく上回り、昨年度を超える応募があり、大きな成果を得た。

また、今年度も札幌市以外の道内町村、道外からの応募も数点見られたことは拡がりという点で評価できる。



●時計台まつり市民文芸作品コンクール優秀賞作品の紹介●

川 柳		俳 句		短 歌		詩	
母さんもデートしていた時計台	鐘の音が優しい想い出つれてくる 遠くまで響け平和の時計台 百年の先へ希望の鐘が鳴る	月涼し時計台まで歩きけり 原爆忌正午を告げし時計台 鐘の音変らぬ八月十五日	夕立が止むまで居よう時計台 昔のままの君とふたりで 鐘の音にあさがを明日は開かんと 青き薔薇をゆるめて待てり	長瀬 春枝	伊藤 哲	足立 恵子	「時計台に寄す」
川端 大谷 小林 松岡	徳橋 田森 伊藤 伊藤	忠正 彦 勉 哲					その鐘の音は 都会の喧騒に呑み込まれることもなく また、抗い自らを傷つけることもない その鐘の音は 静かに語り続ける 古の若人らの熱き心や 見果てぬ夢の行方を： そして、今宵 届託なく歌い奏てる男子らの 輝く瞳の先にある未来を： その鐘の音は 束の間の静寂（しじま）の中に わたしを誘う

おめでとうございます!!

木原会長 文部科学大臣表彰

木原直彦会長が、永年にわたり（財）北海道文学館館長・副理事長等の要職にあって地域の芸術文化の発展に貢献されたということで、平成18年度地域文化功労者賞を受賞され、文部科学大臣表彰を受けられました。

斎藤大雄先生 北海道文化賞受賞

本会理事の川柳作家の斎藤大雄先生が、北海道の芸術・文化の向上に貢献されたということで、道文化賞を受賞されました。川柳分野での受賞は初めてという快挙でした。

谷口 博先生 北海道功労賞受賞

本会理事の北海道大学名誉教授の谷口博先生が、工場の動力源として省エネ効果が大きい新型スチームエンジンを開発した功績などが評価され、北海道功労賞を受賞されました。道功労賞は、道内の経済、社会、文化の発展に貢献した個人や団体に贈られる最高位の知事表彰です。

本間昭治郎さん 秋の叙勲

本会の前事務局長の本間昭治郎さんが永年の教育功労が称えられ、瑞宝双光章受賞の栄に輝きました。

事務局からのお知らせ

※ 会のホームページを作成中です

事務局には会の活動内容や時計台まつり記念行事のこと、売店での記念品販売のことなどいろいろなお問い合わせがございますが、今までは、広報手段に乏しく充分に応えきれない面がございました。また、会も一昨年度九月の法人認可に伴い、会の種々の情報を積極的に公開していく社会的な責任もあります。

そんなことから、この度、会のホームページを立ち上げることにしました。何せど素人の製作ですので出来映えはまったく期待できません。また、時計台内二階の本会事務室には電話線が引かれておりませんので私の自宅のパソコンを使用しておりますので、メール等の充分な対応もできませんことをご了承ください。

三月中には出来上げたいと思っております。ドレスもまだお知らせできませんが、「さっぽろ時計台の会」で検索をかければ見ることが出来ると思います。

※ 記念品販売 今年度も好調です

昨年度大幅な売り上げ増を果たした売店の記念品販売ですが、今年度も依然として好調を維持しており、昨年度を上回る売り上げが期待されます。「とっけ」を中心とした時計台グッズが売り上げを支えています。

去る十月十六日の時計台創建記念日には50円切手と80円切手二種類の記念切手シートの販売を開始しました。以前からお客様から「時計台の切手はないのですか」という声が聞かれていましたので、役員会で検討を重ねて製作・販売

にふみきったものです。

50円切手は「雪の中の時計台」を、80円切手は「ライラックの花に包まれた時計台」の写真を使用しています。この記念切手の売り上げも好調で、一月には第二版を製作しました。前述のホームページでも紹介をしておりますので、お知り合いの方々へもよろしくご紹介いただければと思っております。



※ 時計台まつり記念行事に積極的なご参加を

平成十七年度から新たに行われることになった時計台二階ホールを使っての時計台まつり記念行事も一回を数えました。平成十七度は殆ど

が満員の盛況でしたが、平成十八年度は前述のとおり物足りない観客数となりました。せっかくの行事ですから常に満席の行事にしたいと思っております。

また、会員の皆様へのご優待ということも併せて考慮して、平成十九年度の行事には会員の方に優先的に入場整理券をお渡しすることも検討しております。詳細については、新年度の行事の案内も含めて、総会終了後にご連絡をいたします。